

# 静岡特産海藻増養殖研究

(予算区分 [研究費] 研究期間 2022～2026 年度)

担当：水産・海洋技術研究所 深層水科 今井基文  
伊豆分場 山田博一

## 【研究の背景とねらい】

- ・ 磯焼けで消失した榛南海域のサガラメ藻場の回復を目指し、沿岸漁場整備実証事業においてサガラメ種苗の大規模な移植を実施しています。
- ・ 移植種苗を速やかに岩盤に活着させる技術を開発すれば、種苗の定着率を高めることができ、より効率的に種苗移植が実施できます。
- ・ サガラメの生長、特に仮根を伸長促進させる技術開発を植物ホルモンを活用して行います。
- ・ 開発した技術は榛南地域のサガラメや伊豆半島のテングサ、アラメ、アントクメなど特産海藻の増殖に役立ちます。

## 【これまでに得られた成果】

(2024 年度までの成果)

- ・ 植物ホルモンのひとつであるジベレリンを添加した海水でサガラメを培養する室内実験を実施したところ、一定の濃度で葉体の生長に促進効果があることがわかりました。
- ・ 植物ホルモンのひとつであるオーキシシン、インドール 3 酢酸を添加した海水に 30 分浸漬し、仮根の発芽、発育を確認したところ、特定の濃度で発育促進の効果があることがわかりました。前年度までの成果を、図表等を用いて分かり易く、箇条書きで記述

(2025 年度の成果)

- ・ 合成オーキシシン、合成サイトカイニンにおいても同様の処理を行い、仮根の再生、発育を確認したところ、特定の濃度で発育促進の効果があることがわかりました。
- ・ 天然採取した母藻を使用して、アントクメの種苗生産体制を確立しました。一方で天然の母藻を試験移植し、周辺基盤への幼体の着生を確認しました。



図1 サガラメ種苗の培養実験



図2 サガラメ種苗にオーキシシン処理をして発育した仮根

## 【期待される成果】

- ・ 開発した技術は榛南地域のサガラメや伊豆半島のテングサ、アラメ、アントクメなど特産海藻の増殖に役立ちます。

## 【今後の計画】

- ・ 褐藻及び紅藻の植物ホルモン（ジャスモン酸等）の作用をオキシリピン類の分析や生合成・代謝経路の解析から調べ、海藻種苗の移植への実用性を検討する。

(作成 2026 年 4 月)